東京ジャーミイ金曜日のホタバ

２０１１年11月４

犠牲祭の崇拝行為の重要性

親愛なるムスリの様

犠牲祭における崇拝行為は、崇高なる主であるアッラーに精神的に近づき、アッラーが与えられている無数の恵みに対し感謝し、その命令に対し頭を下げて従うことを示し、そのご満悦を得るための一つの道です。犠牲祭における崇拝行為は、犠牲祭において実行される宗教的な

義務です。崇高なるアッラーは「さあ、あなたの主に礼拝し、犠牲を捧げなさい」（潤沢章２節）と命じられ、犠牲を屠る行為を勧められました。

犠牲を屠る行為はムスリムの間に兄弟愛、相互援助、相互扶助の精神を活気づかせ、愛情や友情を強めます。けちであること、自己中心的であることといった病を遠ざけます。人に、自分が持っている恵みをムスリムの兄弟と分かち合うことを教えます。多くの善行を得て、アッラーの位階における精神的な階梯をあげることを助けます。

犠牲を屠る行為は、肉のニーズに応えるためではなく、アッラーのご満悦を得るために行なわれるべきです。なぜならアッラーはこのことに関し次のように仰せられているからです。「それらの肉も血も、決してアッラーに達する訳ではない。かれに届くのはあなたがたの篤信〔タクワー〕である。」（巡礼章３７節）１５世紀にわたってイスラームの国々で実行されている犠牲を屠る行為は、犠牲の動物の対価を貧者もしくは団体、宗教寄進財団に払うことではそれを実践したとは見なされません。今日特に一部の国では、時間や場所、その他の理由でこれを実践することが困難であるかもしれません。犠牲を屠る機会がなく、その肉を真に必要としている人に届けたいと願う人は、代理という手段で犠牲を屠らせることができます。

崇高なるアッラーが私たちに与えられた恵みへ感謝し、その命令に従うことはムスリムであることの要するところです。犠牲を屠る行為はそういった崇拝行為の一つです。それができるムスリムは、イスラームの義務の一つであるこの行為を必ず実行しなければなりません